

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 12 章 49～53 節＞

1 不可解さと不安を生むイエス様の言葉 その真意は？

イエス様は「愛」「赦し」「平和」を語られるお方だと思っていたら、ここでは「火」(49)「分裂」(51)「対立」(53)を語られています。どう理解したらいいのでしょうか？ ここを読み解くカギは、「文脈の中で」と「部分から全体ではなく、全体から部分を考える」です。どういふことでしょうか？ その前に分裂・対立について触れておきます。

2 マイナスイメージの言葉、分裂・対立 その先にある恵みに注目。

ここに記された「分裂」「対立」で私は二つのことを思い出します。一つは、キリストを信じる信仰を巡って私自身の家に起こった分裂・対立です。キリストの救いを知った人とまだ知らない人との間で分裂・対立が生まれることがあるのは仕方ないと思います。キリストの救いは、知ると知らないでは大きな違いを生まざるを得ない破格の恵みだからです。しかし、その一時の分裂・対立があつて、キリストの大きな恵みへの理解が生まれて来る場合もあると思います。大したことのないものは大した違いも生まないからです。私の家族にもそういう時期がありました。しかし、そのゴールは皆で神様を感謝する一致であつたのです。

もう一つは、イザヤ書に記された素晴らしい個所(19:16-25)です。分裂・対立する者が火による精練を通して聖書の神様と一緒に礼拝する時が来ると記された個所です。聖書の神様は、神の民イスラエルを苦しめたエジプトもアッシリアも最後にはイスラエルと一緒に神様を感謝して礼拝する者にして下さるといふのです！

3 文脈からと聖書全体(の福音)から考える時に見えて来る恵み。

文脈を考えますと、12 章はこれまで次第に再臨の時(完成の日)に向かって語られて来ました(48 節まで)。そしてそれに続いて語られた今日の個所で、イエス様は、ついにここで(50 節)、ご自身の十字架の死のことを述べられます。イエス様の死と聖書の語る完成の日がここで結びついたのでした。それは主ご自身に苦しみをもたらすものであると言われていふ。その苦しみによって私たちは神様が私たちの罪を赦して下さるお方であることを知る聖書全体のゴールメッセージ、福音(Good News)に導かれたのでした。この部分だけ読みますと、不可解さと不安だけ覚えさせられるような個所ですが、文脈からそして聖書全体から考える時、不可解さと不安は神様への信仰の理解と平安に変えられていくのです。